

KEI

CHITSU

可児市(岐阜県)の甲虫類 I
オオキノコムシ科……川原 誠……9

上宝村中尾高原における
ジャコウアゲハの採集例……宮野 昭彦……11

エチゴハガタヨトウの
飼育経過と蛹の記載……船越進太郎……12

岐阜市付近のヒョウタンゴムシ
亜科の記録……桐山 功……14

伊自良村でヨコヤマトラカミキリを採集……野平 照雄……14

トワダオオカを坂内村で採集……高井 泰……15

オニクワガタの根尾村における採集例……宮崎 弘規
間野 隆裕……15

白川村大白川で採集したホタル4種……高井 泰……15

岐阜県昆虫分布研究会機関誌

可児市(岐阜県)の甲虫類 I オオキノコムシ科

川 原 誠

A list of coleoptera insects collected in Kani-City(Gifu Pref.)

Makoto KAWAHARA

はじめに

近時の可児市の変貌ぶりは、すさまじいばかりである。昔日の姿を知るものには、昨今の可児市は、未知の地の如くさえ映る。

筆者は、1984年4月から可児市に居住し、以後同市の甲虫相の調査を進めているが、昔日の記憶を辿って訪ねた森が団地と化し、池沼がマンションと化していたことが再三であった。しかし、時に懐かしいシイの古木に再会したり、かつてゼフィルスの舞う姿に見とれていたコナラ林の中の墓地に思いがけず行き着いたりもする。

押し寄せる都市化の波に抗して、かろうじて昔日の面影を残す地も散在している。足はもっぱら懐旧の情に引きずられ、ために調査域は限られてしまっているが、可児市の甲虫相に関する資料が乏しい現状を考えると、これまでの調査結果を記録しておく意義も無くはないである

う。

調査地は、大きく次の三つに分けることができる。第一は、いわゆる鎮守の森である。恐らく当地の潜在自然植生を示唆する貴重な存在であり、それだけにその甲虫相にも興味深いものがある。当地の鎮守の森は、東海地方の内陸部に共通するシイカナメモチ群落によって構成されるが、構成種は少なく、着生植物やツル性植物が観られないことなどからすると、人間の手が加わった二次林的な照葉樹林であるものと観られる。

第二は、いわゆる里山と呼ばれるアカマツコナラの二次林である。都市化の影響を最も強く受け、年々規模が縮小しているが、一部には保安林として保全されているものもある。その代表的な存在が、「土田山」と呼ばれる鳩吹山(標高318.2m)の北一西側斜面一帯である。そこでは山麓部と谷筋にはコナラ林がよく発達

し、樹種もリョウブ、タカノノツメ、ネジキ等と比較的多く、林床にはネザサが観られる。尾根筋と土壤の薄い露岩地では、もっぱらアカマツが優占し、低木層にコバノガマズミ、ナツハゼ、ネズ等が観られる。

第三は、木曾川左岸に帯状に存在する河辺林である。ここでは、クヌギが比較的多く、ハンノキ林も良く発達している。

以下の目録において、採集地名として、今渡、下恵土、中恵土とあるもの及び土田とあるものの一部は、鎮守の森であり、土田山、坂戸、塩、塩河とあるものは、アカマツコナラ林、川合、上恵土とあるもの並びに土田とあるものの一部は、河辺林で採集したことを意味する。

目 録

この目録では、和名及び学名とその配列は、原色日本甲虫鑑(Ⅲ)(黒沢良彦他、1985)のオオキノコムシ科に準拠する。

1. *Aulacochilus sibiricus* REITTER ルリオオキノコムシ
可児市上恵土, 14. VII. 1985, 3exs, 可児市土田山, 6. VI. 1987.
カイガラタケおよびサクラ類に着生したヒメシロアマタケから得られた。
2. *A. japonicus* CROTCH カタモンオオキノコムシ
可児市塩, 16. VII. 1985, 2exs, 可児市今渡, 11. VII. 1985, 2exs, 可児市下恵土, 15. VI. 1986, 1ex, 可児市塩河, 31. VII. 1987, 3exs.
カワラタケに普通に観られるが、可児市ではあまり多くない種のようなのである。
3. *A. decoratusu* REITTER ハスジオオキノコムシ
可児市土田山, 6. VI. 1987, 1ex.
クヌギと思われる切株のうえを歩行していた。
4. *Neotriplax atrata* LEWIS クロハバビロオオキノコムシ
可児市下恵土, 15. VI. 1986, 1ex.
カイガラタケの着生したコナラの枯れ枝のピーティングにより得られた。
5. *N. lewisii* (CROTCH) アカハバビロオオキノコムシ
可児市下恵土, 15. V. 1985, 1ex, 3. XI. 1985, 13exs, 可児市今渡, 18. XI. 1985, 19exs.
カイガラタケ及びカワラタケに観られる。
新成虫は、秋期に出現する。
6. *Triplax japonica* CROTH ホソチビオオキノコムシ
可児市坂戸, 10. VI. 1985, 4exs, 可児市塩, 16. VI. 1985, 8exs.
コナラの二次林内の倒木に着生したヒラタケから得られた。
7. *T. sibirica* SOLSKY シベリアオオキノコムシ
可児市下恵土, 10. VI. 1985, 6exs, 可児市塩, 16. VI. 1985, 22exs.
ヒラタケから得られたが、前種に比して個体数は多く、採取数の数倍の個体を観察した。
8. *T. devia* LEWIS フタホシチビオオキノコムシ
可児市下恵土, 15. VI. 1986, 6exs, 可児市土田山, 6. VI. 1987, 4exs, 可児市土田, 9. VI. 1987, 2exs.
サクラ類の枯枝に着生したヒメキクラゲとアラゲキクラゲ(ともに乾燥した状態であった)から得られた。
9. *T. niponensis* (LEWIS) クロチビオオキノコムシ
可児市河合, 15. V. 1985, 5exs, 可児市下恵土, 15. VI. 1986, 4exs, 可児市塩河, 31. VII. 1987, 5exs.
カワラタケ、カイガラタケに多く観られるが、時にヒイロタケにも観られる。
10. *Dacne japonica* CROTCH ニホンホソオオキノコムシ
可児市下恵土, 15. V. 1985, 2exs, 可児市土田, 9. VI. 1987, 3exs.
いずれも杉林内に放置されたシイタケ栽培用の古いほだ木から得られた。シイタケの害虫として著名な本種ではあるが、近時は観かけることが少なくなった。

11. *Magalod acne bellulu* LEWIS カタボシ
エグリオオキノコムシ
可児市今渡, 22. VII. 1987, 4exs, 24. VII.
1987, 2exs.
カシの古木の根ぎわに着生したオオウロコ
ダケに, 夜間に限り観られた。
12. *Episcapha fortunei* CROUCH ヒメオビ
オオキノコムシ
可児市下恵土, 15. IV. 1985, 7exs, 可児市今
渡, 3. II. 1985, 11exs, 可児市土田山, 9. VI.
1987, 14exs.
カワラタケ, カイガラタケ, ヒイロタケ等
に観られ, 個体数も多い。
13. *E. gorhami* LEWIS ミヤマオビオオキノ

コムシ
可児市土田山, 14. VII. 1985, 2exs, 可児市今
渡, 24. VII. 1987, 4exs.
前種と一部で混生するものようであるが,
本種の方が個体数が少ない。

小 括

我が国には18属96種程度のオオキノコムシ科
甲虫が分布するものとされているが, その僅か
7属13種が確認されたにとどまる。本科の甲虫
は, 全て菌類にその生活史を委ねているので,
日々森林が消滅しつつある当地域からは, 今後
期待しうる追加種は, ごく限られるものと思わ
れる。

上宝村中尾高原における

ジャコウアゲハの採集例

宮野 昭彦

Akihiko MIYANO

筆者は, 次のように *Atrophaneura alcinous*
KLUG ジャコウアゲハを採集したので報告する。
岐阜県吉城郡上宝村中尾 (標高約 1,100 m),
7. VIII. 1987, 1♀ (宮野採集・保管)。

ジャコウアゲハは暖地性の種であるので, 岐
阜県内では美濃地方に分布の中心をもつが, 飛
騨地方でも高山市や神岡町において生息が確認
されている (浅野, 1984・1985)。高山市につ
いては, その発生地は標高は約 600 m と想像さ
れる。上記の中尾は西穂高岳を後ろにひかえた
高原で, 焼岳からの温泉で有名なところである。
採集地点は路傍の空地にできた草むらである。
採集時, この♀はゆるやかに飛翔中で, 産卵対
象を探しているようすであったので, 付近を調
べてみたが, 食草のウマノズクサは発見でき
なかった。本種の分布は, 食草のそれに当然な
がら規制されているので, 高標高地には産しな
いと思われる。しかし, 長野県では標高 1,500
m 地点においても, 稀ながら採集例があるとい



ジャコウアゲハ♀ (中尾高原産)

う (藤岡, 1981)。筆者の採集例は, 岐阜県内
では最も標高の高い地点におけるものと思う。

文 献

1. 浅野好則 (1984) 高山市でジャコウアゲハ
採集, とびむし No. 4: 32.
2. ——— (1985) 飛騨地方の偶産蝶と分布
疑問種について (2), とびむし No. 6: 42.
3. 藤岡知夫 (1981) 日本産蝶類大図鑑解説編,
講談社: 42.

エチゴハガタヨトウの飼育経過と蛹の記載

船 越 進 太 郎

Breeding record of *Asidemia inexpecta* (SUGI), with description of its pupa
Shintaro FUNAKOSHI

エチゴハガタヨトウは新潟県弥彦山で得られた個体をもとに記載された1属1種の蛾である(杉, 1963・1982). その後, 東京, 福島, 長野, 岡山などで記録されたが, ツゲ *Buxus microphylla* SIEB. et. Zucc. を食することが判明して(大和田・山本, 1983), さらに詳しい分布像が明らかになってきた. 岐阜県では揖斐郡藤橋村(旧徳山村)白谷で1卵が記録されたのが最初で(遠藤・尾藤・笠井, 1981), 続いて山県郡美山町伊往戸(市橋ほか, 1983), 揖斐郡春日村で発見されている(未発表). この中で美山町伊往戸は付近に自生するツゲに多数の幼虫が確認され(渡辺, 1986), 当地は多産地として知られるようになった.

1987年4月29日, 美山町伊往戸でツゲにつく幼虫の密度を調べていたところ, 葉の上に1卵を発見し, 飼育羽化させることができた. これまで幼虫の飼育は何回も試みたが, 全て縮むようにして死んでおり, 飼育の困難な種と考えていた. 幼虫形態は大和田・山本(1983), 山本(1987)に詳しいが, 蛹の形態はまだ報告をみないので, 飼育経過と共に図版を添えて発表する.

飼 育 経 過

1987年4月29日 ツゲ葉の表面, 先端より1/2や左側に1卵を発見した. 赤褐色つやがあり概形は半球形, 背高く底面の接着面は広い. 卵中央から側面に向かって10条ほどの縦列があり, その両側に途中から発す

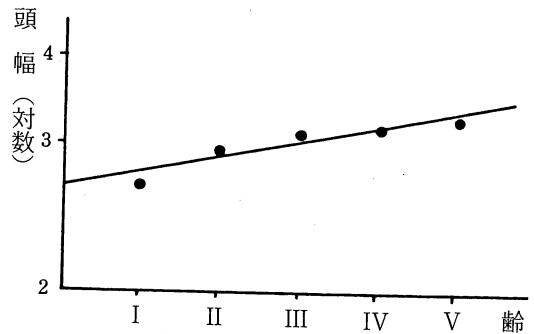


図1. エチゴハガタヨトウ幼虫の成長曲線

る縦列が存在する. 直径1,088 μm , 高さ825 μm .

5月5日 孵化 1令頭幅 615 μm .

5月10日 脱皮 2令頭幅 975 μm .

5月13日 脱皮 3令頭幅 1,650 μm .

5月23日 脱皮 4令頭幅 2,400 μm .

5月28日 脱皮 5令頭幅 3,150 μm ,

終令体長 36.1 mm.

6月25日 蛹化 まゆは作らず, プラスチック容器の底で蛹化した.

7月12日 ♀羽化.

終令の期間が28日と長く, 1回の脱皮を見落したのではないかと考えたが, 5令頭幅(蛹化時のもの)は, 成長曲線(対数では直線)上にほぼ載っている(図1), このような成長過程であり, 令を見落していないと判断した.

蛹 形 態

体長16.7mm, 体幅5.6mm, 全体暗褐色でつ

やがあるが、頭部、腹部はやや黒っぽく、胸部、翅はやや明るい。刺毛は目立たない。頭部は丸くて頭楯接線は明瞭である。下唇髪は下部がふくらみよく発達する。胸部には細かい皺がある。小腮、中脚、触角は翅頂に届かず、わずか手前ではぼ一列に並ぶ、前脚は大きく発達するが、腿節は現われない。後脚附節末端は翅頂を越える程度に現われる、第5,6,7腹節の背面前縁に細かい凹部を有する。第10腹節後端の尾突起には3対の尾鉤が生じ、いずれも先端が鉤状の刺毛となる。最後部の1対は太くて長い。

文 献

1. 遠藤弘志・尾藤成人・笠井初志 (1981) 揖斐川上流域の蛾相。岐阜県揖斐川上流域生物相調査報告書 (水資源開発公団・電源開発 K.K.・中電 K.K.): 111-179.
2. 市橋史康ほか (1983) ナマリキンタバ・

オオキイロアツバの岐阜県における発見。誘蛾燈: 93: 133.

3. 大和田守・山本光人 (1983) 岩場の蛾に関する新知見。蛾類通信 122: 345-352.
4. SUGI, S. (1963) Four new species and one new subspecies of genus *Apamea* Oshns. from Japan, with notes on some related species (Lepidoptera, Noctuidae, Amphipyriinae). *Tinea* 6: 9-19.
5. 杉繁郎 (1982) ヤガ科. 井上寛ほか, 日本産蛾類大図鑑. 講談社, 東京.
6. 山本光人 (1987) ヤガ科. 杉繁郎ほか, 日本産蛾類生態図鑑: 185-244. 講談社, 東京.
7. 渡辺浩二ほか (1986) 岐阜県山県郡美山町伊往戸 8 月上旬の蛾. *Microsarcops* 2: 34-41. 岐阜県立羽島北高校生物部.

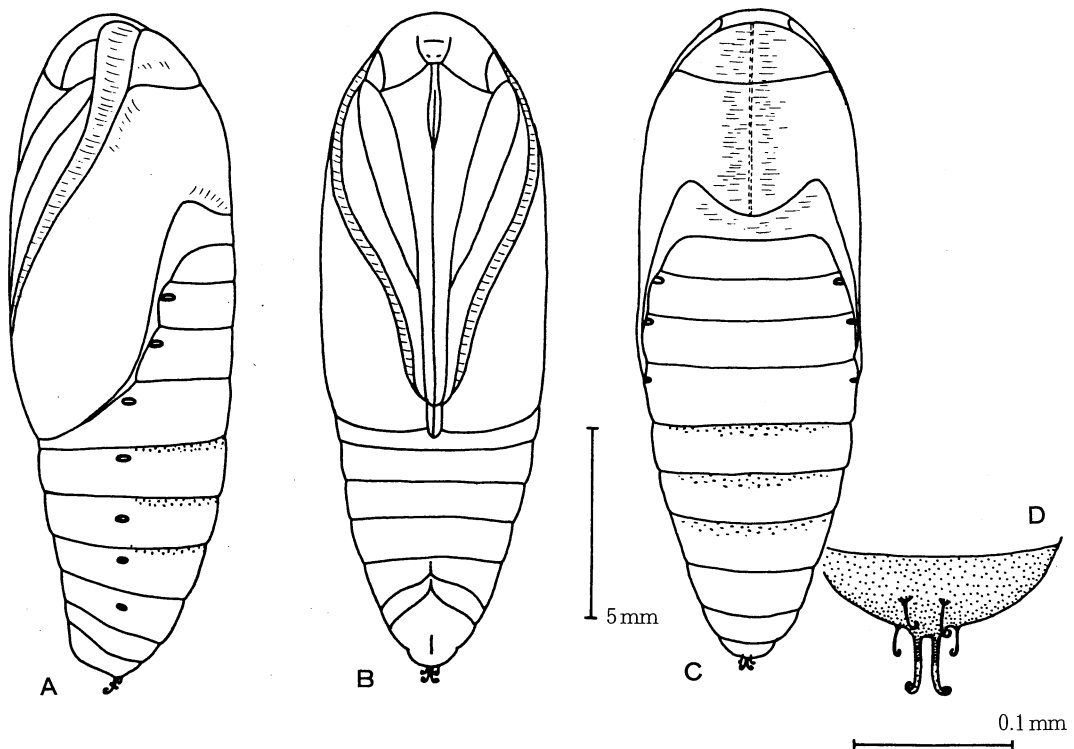


図 2. エチゴハガタヨトウ蛹の形態 (A: 側面, B: 腹面, C: 背面, D: 尾突起背面)

岐阜市付近のヒョウタンゴミムシ亜科の記録

桐 山 功

A note of Scaritinae in Gifu city and its adjacent regions

Isao KIRIYAMA

ヒョウタンゴミムシ亜科は、ゴミムシ科中では特異な形態をしているので、他の亜科とは容易に区別できる。しかし、本亜科中のチビヒョウタンゴミムシ属は小形種が多く、あまり注目されていないようである。

私は、現在まで岐阜市とその近辺で、3属9種を確認できたので、以下に報告したい。

1. *Scarites sulcatus* OLIVIER オオヒョウタンゴミムシ
各務原市稲羽町, 15. VI. 1961, 1ex.
2. *S. terricola pacificus* BATES ナガヒョウタンゴミムシ
岐阜市茜部, 25. III. 1953, 2exs: 岐阜市本荘, 16. VIII. 1984, 1ex.
3. *Clivina westwoodi* PUTZEYS チャヒメヒョウタンゴミムシ
岐阜市茜部, 29. V. 1952, 1ex: 羽島郡笠松町松枝, 29. IV. 1962, 2exs: 岐阜市本荘, 5. V. 1962, 1ex.
4. *C. lewisi* ANDREWES クロヒメヒョウタンゴミムシ
岐阜市茜部, 15. VII. 1956, 1ex.
5. *Dyschirius batesi* ANDREWES ムネアカチビヒョウタンゴミムシ
岐阜市日野, 9. V. 1953, 1ex.: 24. V. 1984, 2exs: 3. V. 1960, 1ex.
6. *D. hiogoensis* BATES コチビヒョウタンゴミムシ
岐阜市本荘, 3. V. 1961, 3exs.

7. *Dyschirius sphaerulifer* BATES マルクビチビヒョウタンゴミムシ
岐阜市茜部, 3. VI. 1954, 6exs.
8. *D. steno* BATES ホソチヂヒョウタンゴミムシ
羽島郡笠松町松枝, 29. IV. 1962, 1ex: 各務原市稲羽町, 26. VII. 1962, 4exs: 9. IX. 1963, 1ex.
9. *D. cheloscelis* BATES ナガチビヒョウタンゴミムシ
羽島郡笠松町松枝, 29. IV. 1962, 6exs.

文 献

1. 中根猛彦 (1953) 日本の甲虫(9). 新昆虫, 6(3): 45~52.
2. 中根猛彦他 (1963) 原色昆虫大図鑑 II, (北隆館): 20~22.
3. 上野俊一他 (1980) 原色日本甲虫図鑑 II, (保育社): 61~63.

伊自良村でヨコヤマトラカミキリを採集

野 平 照 雄 (Teruo NOHIRA)

Epiclytus yokoyamai (KANO) ヨコヤマトラカミキリは、とくに珍しい種ではないが、岐阜県では記録の少ない種である。これを、筆者はゾウムシを採集している際、偶然にも採集したので報告しておく。

山県郡伊自良村長滝 5. V. 1988, 1ex.

トワダオオカを坂内村で採集

高 井 泰 (Yasushi TAKAI)

岐阜県のカ科については田口(1982)が29種をまとめている。筆者はこの目録にないトワダオオカ *Toxorhynchites towadensis* (MATSU-MURA)を次のように採集したので記録しておく。

岐阜県揖斐郡坂内村夜叉ヶ池付近, 27. VIII. 1987, 1ex.

夜叉ヶ池に向かう途中, 雨が降ってきたので木の下で雨宿りをしたところ, 樹幹に大きな美しい蚊が止っていたので採集したのが本種であった。

本県周辺では白山などで採集されているようである(富樫, 1978)。

文 献

1. 田口五弘(1982) 双翅類. 岐阜県の昆虫(岐阜県環境部環境保全課編): 399-408. 岐阜県.
2. 富樫一次(1978) 白山の昆虫. 267pp. 北国出版社. 金沢.

オニクワガタの根尾村における採集例

宮 崎 弘 規 (Hiroki MIYAZAKI)

間 野 隆 裕 (Takahiro MANO)

Prismognathus angularis WATERHOUSE
オニクワガタは山地に拡く分布するが記録はあまり多くない。筆者らは本種を本巣郡根尾村の三ヶ所で記録することができたので報告する。なお、全ての個体はガの夜間採集時に灯火に飛んできたものである。

根尾村大郷谷, 14. VIII. 1982, 1♂, 14. VIII.

1987, 2♂♂, 1♀.

根尾村馬坂峠, 29. VIII. 1984, 3♂♂, 2♀♀.

根尾村水鳥谷, 3. IX. 1983, 1♂.

白川村大白川で採集したホタル4種

高 井 泰 (Yasushi TAKAI)

1987年7月25, 26日の両日, 岐阜県大野郡白川村大白川で行なわれた岐阜県昆虫分布研究会の採集会で, 次の4種のホタルを採集したので記録しておく。

1. *Pyrocoelia fumosa* (GORHAM) クロマドボタル 1ex.
2. *Lucidina biplagiata* (MOTSCHULSKY) オバボタル 2exs.
3. *L. accensa* GORHAM オオオバボタル 1ex.
4. *Drilaster axillaris* KIESENWETTER
カタアカホタルモドキ 1ex.

岐阜県下のホタルの記録は上記の4種の他, ムネクリイロボタル, ゲンジボタル, ヘイケボタル, ヒメボタル, コクロオバボタルがあるが, 福井県の記録などみると, オオマドボタル(福井県では古い記録がある), スジグロベニボタルが採集される可能性がありそうである。あるいは既に記録があるかも知れない。御存知の方は御教示願いたい。

■■■■■■■■■■ 啓 蟄 の 原 稿 を 募 集 し ま す ■■■■■■■■■■

- 原稿は原稿用紙に書いて下さい。
- 刷り上り11ページ(400字詰原稿用紙約40枚)以上の報文を一挙掲載する時は, 超過分費用が著者負担となることがあります。
- 原稿の書き方は, 本号16ページを参考にして下さい。不備な原稿は, 編集者が訂正を求めることがあります。
- 原稿の送り先, 照会先は下記のとおりです。

〒 500 岐阜市芥見南山3丁目11-1

岐阜県立岐阜藍川高等学校内 田中正弘 宛

「啓蟄」 投 稿 規 定

1. 「啓蟄」への投稿は、依頼原稿や特に編集委員会で認めたものを除き、少なくとも執筆者のうち一人が岐阜県昆虫分布研究会の会員でなければならない。
2. 内容は岐阜県の昆虫に関する論説、調査記録、短報などとする。採集記、随想などは当分の間「GKK通信」へ投稿されたい。また外国語のもの（摘要等は除く）や重要な分類上の取扱いを含むものは原則として受け付けない。
3. 原稿には原則として横書の原稿用紙を用いるが、短報は葉書でもよい。またワープロによるものも受け付ける。なおワープロ使用の場合は1行21文字で作成すること。「啓蟄」専用の原稿用紙（横21文字）が必要な場合は編集委員まで申し出ていただければ郵送する。
4. 原稿は当分の間原稿用紙40枚までを限度とするが、超過分著者負担のもの、または編集委員会により特に認められたものについてはこの限りでない。
5. ワープロまたは専用の原稿用紙を使用する場合は、次のことに注意をされたい。
 - (1) 英字の大文字は1マスに1文字、小文字は2マスに3文字書く。
 - (2) 数字は原則として1マスに2文字書く。
 - (3) 短報以外のものには英文表題をつけることができる。
 - (4) 氏名は桁を改めて書き、続けて（ ）内にローマ字名を書く。
6. 注や文献を記す場合、本文の右肩に小さな文字で¹⁾などと記す表記は使用しない。
7. 昆虫や植物の種名は少なくとも文章の中で最初の1回は省略せずに書き、2回目以降は混乱のない範囲で省略してもよい。また採集年月日、採集地、個体数、採集観察者名、標本所有者などのデータは必ず明記する。なお採集年月日の表記はなるべく1988. XI. 23. または23. XI. 1988. のように略記されたい。
8. 図は明瞭に書かれたものであること。カラー印刷は原則として受け付けない。
9. 別刷（表紙なし）は実費で作成する。希望者は原稿の1枚目に分かりやすいように必要部数を朱記すること。（現在別刷の作製費用は、1ページあたり1,500円）
10. 原稿は原則として返却しないが、付図は申し出があれば返却する。
11. 原稿に不備がある場合は書き直しを求める場合がある。また編集の都合上、編集者が原稿の主旨を変えない範囲で手を入れることがある。

お知らせ 本誌バックナンバーは下記のとおりです。入手希望者は、下記連絡先へ問い合わせ下さい。

〈会員価格〉

1巻: 1号 530円, 2号 600円, 3号 1,500円
 2巻: 4号 830円, 5号 680円, 6号 900円
 3巻: 7号 680円, 8号 680円, 9号 890円
 4巻: 10号 750円, 11号 900円, 12号 600円
 5巻: 13号 600円, 14号 600円, 15号 1,260円

連絡先 : 岐阜県昆虫分布研究会

〒501-11 岐阜市柳戸1番1
 岐阜大学教育学部内

啓 けいちつ 蟄

Vol.6 No.17

発行日/昭和63年(1988年)11月15日
 編集者/田中正弘 野平照雄
 尾藤成人 高井泰
 発行者/岐阜県昆虫分布研究会(GKK)

〒501-11 岐阜市柳戸1番1
 岐阜大学教育学部内
 郵便振替 名古屋5-8149
 年額会費 3,000円

印刷所/名港印刷株式会社
 名古屋市港区築三町3-6
 TEL (052) 652-3311